



おもすの森

発行
大本山 本門寺 根源
山 務庁
富士宮市北山4965
電話 0544-58-1004

日蓮大聖人

御聖訓

『除病御書』

(建治元年)

その上、日蓮の身、並びに弟子等、過去謗法(ほうぼう)の重罪(じゅうざい)いまだ尽くさざるの上、現在多年の間、謗法者となり、また謗法の国に生る。当時信心深からざるか。あにこれを脱れんや。ただし貴辺この病を受くるの理、或人これを告ぐ。予、日夜朝暮に法華經に申し上げ、朝暮に青天に訴う。除病の由、今日これを聞く。喜悦何事かこれに過ぎん。事見参(けんざん)を期(ご)せん。恐恐。

【現代語訳】

(前欠) その上、日蓮の身や、弟子の過去世における謗法の重罪がまだまだ尽きない上に、現在の世でも多年の間、謗法者となり、また謗法の国に生まれました。今日これほど信心が深くなかったならば、どうしてこの謗法の罪から脱却することができようか。いや、謗法の罪から脱却することなど思いもよらないに違いありません。さて貴殿がこの病にかかったと、ある人から聞いた。そこで私は、日夜法華經に申し上げ、朝暮に諸天善神に祈願をしていたところ、病が治ったという知らせを本日も聞いた。なんともこの上ない悦びである。詳しいことは、お目にかかった時に申し述べたい。つつしんで申し述べる。

※参考・『日蓮聖人全集』

御案内

御大事御本尊会

日時 令和六年七月二十四日(水)
土用丑の日 午前10時

場所 本門寺根源 本堂

疫病退散のいわれのある靈験あらたかな御大事御本尊を御開帳し、襷袢(しきみはらい)にて皆様の身体健全・無病息災を御祈念致します。年に一度の奉奠ですので、お誘い合せの上ご参詣下さい。



「身代り守り」頒布

御大事御本尊御守

御靈宝疫病退散の「御大事御本尊」を複写し、身代わり守りとして特別に頒布しております。

皆様の菩提寺である末寺寺院が窓口でございますが、郵送でも承っておりますので、ご要望の方はご連絡ください。電話〇五四四一五八一〇〇四

第8回 清掃奉仕のお願い

7月20日(土) 午前9時～10時30分(雨天順延)

今回の清掃奉仕は、八月のお盆を迎える為の道場荘厳であります。清掃奉仕によって共に汗を流し、自分自身の心の垢も一緒に流しましょう。そして、清らかな気持ちで仏様をお迎え致します。



盂蘭盆



お盆て何？

「お盆」と言うのは略称で、正式には「盂蘭盆(うらぼん)」と言います。これは古代インドで用いられていたサンスクリット語の「ウランバーナ」を音写したものです。お盆の起源については、日蓮大聖人が『盂蘭盆御書』というお手紙に記されているので現代語訳で見てください。

【お盆を迎えたので、盂蘭盆について申し上げよう。その昔、仏の弟子に目連(もくれん)尊者という人がおられた。この人は智慧第一といわれた舍利弗と並んで、神通第一といわれ、あたかも須弥山に日と月が並んでいるように、また大王の左右にいつも付き従っている大臣のような存在であった。この人の父は吉懺師子(きつせんし)といい、母は青提女(しょうだいによ)といった。その母は大変に物惜しみをして自分の持つている物を他人に与えようとしなかつたために、その罪で死後に餓鬼道へ落ちてしまったのを、目連尊者が救出したことから始まっているのである。】

〔昭和定本〕一七七五頁

『日蓮聖人全集』

日蓮大聖人は続いて、目連尊者が母(青提女)を救うことが出来た要因は、目連尊者自身が法華経を信じ仏に成ったからだと言われ、更には、法華経を信じることによつて先祖・子孫にまでもその功德が及び、成仏させることが出来ると明らかにされています。

※この目連尊者のエピソードは『盂蘭盆経』というお経に説かれています。

地域によつて、時期や風習は様々ですが、ご先祖様に対する感謝の気持ち、敬いの気持ちがあることは変わりありません。これからお盆を迎えるにあたり、ごなた様も御報恩のお気持ちでお過ごし下さい。



御大事御本尊の謂

日蓮大聖人が佐渡流罪より御赦免になり、鎌倉へと向かわれる途中、越後の御堂筋の村にさしかかりますと、白髪の老翁が大聖人の御前に現われました。

この村では疫病が流行つており、病魔退散の御祈祷と御守りを受け賜りたいと願い出られました。大聖人は、懐中より御守りの御本尊を授けその靈驗あらたかな御大事御本尊により疫病は退散したと伝えられております。法要当日は御本尊の下を潜り抜け、御襦袢を受け頂けます。



御襦袢をうける参拝者

檀信徒用御経本再版

檀信徒用御経本「本門要軌」をこの度再版致しました。寺院の布教活動にご活用頂き、また御家庭において、日々の勤行に是非ご利用下さい。御希望の方は、当山寺務所まで御連絡下さい。



檀信徒用御本尊のご案内

皆さまのご家庭に奉安する御本尊を御用意致しました。この御本尊は、日蓮大聖人が日興上人の本弟子である日華上人に授与された御本尊の複製で、京都の本山・本能寺に原本が格護されており、四十七世・片山日幹猊下が影印を拝受し本門寺本堂・生御影尊の後ろに奉奠されています。お問い合わせは本門寺根源山務庁まで。

法華經に学ぶ 第二十四回

布教伝道部 浦野 弘正

仏法守護の帝釈天

前回は法華經に登場する神様方を「お一人、お二人…」とお呼びするところまでお話ししました。神様方でまず出てくるのが「釈提桓因(帝釈天さま)」です。帝釈天さまは、本来はバラモン教のインドラという神様でした。神々の支配者であるとも言われ、阿修羅とも戦ったといわれる戦いの神さまでしたが、成道前から釈迦さまを助け、成道後はそのご説法を聴聞していました。梵天さまと並ぶ「護法の善神(仏法を守る神様)」で、梵天様と帝釈天様を「二大善神」「梵釈」と呼び習わしています。

葛飾柴又の帝釈天と題経寺

少し脱線しますが、日蓮宗の帝釈天信仰で有名なのは、なんとといっても映画「男はつらいよ」シリーズの舞台、東京都葛飾区柴又の題経寺さまです。渥美清さん扮する寅さんが、佐藤蛾次郎さん扮する源公をからかったり、また源公が掃除や鐘撞きをしているシーンには有名です。この題経寺さまは、日蓮大聖人が自ら木の板にお彫りになられたと伝わる御本尊の裏面に、帝釈天さまが彫られていたことから「柴又の帝釈天」の通称が付きましました。

帝釈天さまは二万の天子をお供として、その会座に座っていました。

三人の天子

次に挙げられるのが三人の「天子さま」で、天子さまはお名前を名月天子・普香天子・宝光天子といいます。この三人の天子さまは、帝釈天さまの眷属(部下)である天子として特に名前が挙げられています。日蓮宗では「三光天子」の名で広く知れ渡っています。名月天子は「月天子」で月の神様、普香天子は「明星天子」で星の神様、宝光天子は「日天子」で太陽の神様です。本門寺本堂の東側には日興上人をお祀りした開山堂があります。その向かいに、四十七世匡真院(片山)日幹猊下のお造りになられた「三光池」があります。この三光池は三光天子さまをお祀りしたものです。

日天子と日蓮大聖人

日天子さまについて少し触れます。日蓮大聖人と日天子さまは縁が深いご縁があります。大聖人の母・梅菊さまは、毎日欠かさずとなく日天子さまを拝まれました。ある日、夢の中で蓮華に乗った日天子様にお会いし、その日天子さまが懐に入ったところで梅菊さまはお目覚めになります。あれは夢か現実かと思っていたところ、大聖人を身ごもられましたので、これにあやかり、幼名を「善日磨」と名付けられました。なお、お題目を弘める決心を固められ「日蓮」と名乗られた時の「日」は、如来神力品の中の「如日月光明」からお取りになられました。『四條金吾女房御書』に「明かなる事日月にすぎんや

(中略)法華經は日月と蓮華となり」(『定本』四八四頁)と仰られています。お日様が昇ったり満月が出たりすると、私たちの世界が明るく照らし出されるように、法華經の教えを以て世界中を照らすべく、「日」の字をお取りになられました。

四方を護る神様と四大天王

三光天子さまの次にお名前が出てくるのが、東西南北の四方を護る神さま、「四天王(四大天王)さま」です。この四天王さまも帝釈天さまの眷属として付き従う神様で、今ところ個別にお名前は出てきません。それぞれご紹介すれば、東を護る「持国天」、西を護る「広目天」、南を護る「増長天」北を護る「多聞天(毘沙門天)」で、帝釈天に仕える神様です。日蓮大聖人がお書き願しになられた「大曼荼羅御本尊」の四隅に、それぞれ「大持国天」「大増長天」「大広目天」「大毘沙門天」とお名前があります(これを「勧請される」といいます)。

また余談になりますが、御不幸があった時、亡くなった方の頭を北側にする「北枕」の慣習がありますが、枕元に大曼荼羅御本尊を掲げた時、北を護る毘沙門天さまが左上に勧請されていますので、亡くなった方の頭は毘沙門天さまの方へ向けるべきである、というお上人もいらっしやいます。この三光天子さまと四天王さまも、一万の天子をお供として連れて会座に座りました。

(続く)

『本門要軌』を読む 第二十三回

布教伝道部執事 阿部 和正

五 助行(読経) 十頁

今回より読経に入ります。『本門要軌』では読経Ⅱ助行、題目Ⅱ正行と位置付けておられますが、これについては第四十七世日幹貫首猊下が「本宗の妙行は、末法応時の行法であるから題目が正行で、読誦は助行である。」(『妙行聖典』一七五頁)と明示されており、本宗に於ても宗要の「宗義大綱」に、

4 信行の意義 『日蓮宗宗義大綱』

本宗の信行は、本門の本尊に帰依し、仏智の題目を唱え、本門戒壇の信心に安住するを本旨とする。機に従って読、誦、解説、書写等の助行を用いて、自行、化他に亘る信心を増益せしめる。

と定義されております。「先の正行、すなわち三大秘法の受持を離れて別に四種があるというわけではない。あくまで三秘受持を助けるものとして四種があるのであって、受持成仏以外に、読・誦や解説・書写等で成仏があるということではない。」(『宗義大綱読本』一二六頁)と解説されています。殊に題目と読誦の関係性について、

て、山川智応博士の解説が明快です。「助行と大聖人の仰せになっているのは、正行の御題目の功德を助けるのではなく、御題目一瞥えば薬一の功德を讃え、その行法一瞥えば薬の飲み方を示した効能書であるから、助行は行者の修行一瞥えば服み方を助けるものであるとは、恩師智学先生の實に動かすべからざる明晰明解と申すべきである。」(『妙行正軌略解』二三頁)又、「読誦を助行とするということは、題目の正行に対する信行者の信心を策励増進して、正行を修する心を助けること、たとへば効能書を熟読することによって、その薬に対する信用をいよいよ高め、その用法を厳密に違はぬようにし、禁忌などの養生法をますます正しく守るようになるといった如きもの」(『妙行正軌範略解』四三頁)と解説されております。正行Ⅱ題目Ⅱ良薬と助行Ⅱ読誦Ⅱ処方箋は切り離すことの出来ないものであり、処方箋なくして正しい薬の服用は困難であり、いくら処方箋を読んでも、薬の服用なくしては病を克服することは出来ません。次に実際の読誦であります。当然に法華経の読誦ですが、何れの経何れの品を、如何様に読誦するのか宗祖に問いますと、「法華経は何れの品も先に申しつる様に愚かならねども、殊に二十八品の中に勝れてめでたきは方便品と寿量品にて待り。余品は皆枝葉にて候

也。されば常の御所作には、方便品の長行と寿量品の長行とを習い読ませ給候へ。(略)余の二十六品は身に影の随い、玉に財の備わるが如し。寿量品・方便品をよみ候へば、自然に余品はよみ候はねども備わり候なり。(略)されば常には此方便品・寿量品の二品をあそばし候て、余の品をば時々御いとまのひまにあそばすべく候。」(『月水御書』定本二九〇―二九一頁)と、常の御所作Ⅱ方便品・寿量品の二品の読誦を勧められております。「迹門方便品は一念三千・二乗作仏を説て爾前二種の失一つ脱たり。(略)本門にいたりて始成正覚をやぶれば(略)真の十界互具・百界千如・一念三千なるべし。」(『観心本尊抄』定本五五二頁)と、迹門十四品では方便品を根幹・余品を枝葉として二乗作仏の教えが説かれ、本門十四品では寿量品を根幹・余品を枝葉として発迹顯本の教えが説かれ、真の一念三千の救いが説かれます。さらに「一部八巻二十八品を受持読誦し、随喜護持等するは広なり。方便品寿量品等を受持し乃至護持するは略也。但一四句偈乃至題目計りを唱へとなうる者を護持するは要也。」(『法華題目抄』定本三九四―三九五頁)と、方便品寿量品のを略の法華経と教示されます。これを受けて本門寺では常の朝勤、年中の諸法要に方便品寿量品を助行とし読誦しております。(続く)

夏休み 1泊2日

おもしろ太鼓

おもしろカレー

五心

手品

屋台

参加者募集

第3回 おもしろ道場

お寺で楽しく心を養う

8/17(土)～8/18(日)

概要 日時 令和6年8月17日(土) 9:00 集合
令和6年8月18日(日) 12:00 解散
会場 法華本門寺根源
対象 小学3年生～中学3年生
(申込締切 8/10 まで
定員 30 名になり次第受付終了)

参加費 2,000 円
(保険料含む)

【目的・内容】
お寺で楽しく五心を学び心を養う体験道場です。各地で活躍する重須孝行太鼓の皆様と交流したり、最近テレビでも活躍のお坊さんマジシャンのマジックを見たり、他にも楽しい催しを用意しています。

五心とは、一、「すみません」という反省の心
二、「おかげさま」という謙虚な心
三、「はい」という素直な心
四、「私がします」という奉仕の心
五、「ありがとう」という感謝の心

【お問合せ】
法華本門寺根源
静岡県富士宮市北山 4965
TEL 0544-58-1004

五心を修養する 少年少女「おもしろ道場」開校 〈本年は一泊二日 お寺で宿泊〉

昨年につきまして、少年少女の心身健全を図る為の「おもしろ道場」を開校致します。本年も一泊二日の日程でお寺での生活を体験して頂きたいと考えております。子供達に呼び掛けて頂き、多くのご参加をお待ち致します。左記要綱をご覧頂き、参加希望の方は、本山に申込用紙がありますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

執事長 鈴木 春雄



三光池の鯉は別の場所で元気に生活しております。

三光池の改修工事

現在、三光池の改修工事に着工しております。防火槽としての役目を損なう事無く、工事を進めております。詳細は追って、おもしろ森に掲載していく予定です。



総会後の研修会の模様

興統法縁会 開催

日蓮宗興統法縁会は、日興上人の法脈を継承する僧侶から成り立っており、全国百六十三名の会員がおります。その会長職を貫首殿下が務められております。

今年度は、六月二十一日に宮崎市内ホテルメリージュにて興統法縁会の理事会、翌二十七日に、日向市妙国寺（黒木報源住職）におきまして、総会が開催されました。また当総会において、当山鈴木執事長より、令和十四年の日興上人七〇〇遠忌事業に向けた経過報告がなされ、改めて法縁の皆様への御協力をお願いされました。

重須婦人会新会長挨拶

新会長 井出和子



四十年間勤めた保育士を定年退職して家にいたところ、齋藤繁美さんに誘われて重須婦人会に入会しました。皆さんと本山行事にお参りさせていただく中、共に力を合わせ御奉仕させていただく中で様々な事を学ばせていただいたています。お香花の水替え、草取り、雨の日・風の日・暑さ寒さの厳しい日、色々な状況の中、知恵をしばり、工夫をして御廟所の掃除も頑張っています。奉仕作業が終わりますと、清々しい気持ちになり良かったネ！と皆で語り合っています。信仰を通して素敵な仏縁に恵まれたこと、心を清らかに持つことが出来る経験は何

にも代え難いものです。本山は歴史物語がいっぱいです。腰掛け石、梨の木、徳川家に関する事などなど、学べる事が沢山あり、お寺を身近に感じることが出来ます。本門寺も世代交代が進み、若いお上人さんが増えましたので将来がとても楽しみです。

私達も高齢になつてきていますが、重須婦人会の活動が心身の健康に繋がっていると感じております。今後とも思いやりの心と和をもつて頑張りましょう。新しい会員様一人一人でも多くなる事を祈りま

重須婦人会員募集

重須婦人会事務局（本門寺内）
連絡先：0544-58-1004

自薦・他薦問わず、一度見学にどうぞ！

新寂回向事務局より

御本堂におきまして、各御霊位の御回向を申し上げました。

- 養仙坊 故 木本 よし子様
 - 養運坊 故 林 久子様
 - 養運坊 故 佐藤 喜美子様
 - 久成寺 故 中山 千恵子様
 - 久成寺 故 土屋 之子様
 - 西之坊 故 渡邊 きく江様
 - 久成寺 故 池谷 ヤス子様
 - 久成寺 故 梶 ゑつ様
 - 久成寺 故 横山 勉様
 - 養運坊 故 諏訪部 典子様
 - 養運坊 故 伊藤 理恵子様
- 六月末日迄 申込み・申請順
ご冥福をお祈り申し上げます

北山小 社会科見学

六月二十日午前
十時半、北山小四年生二十一名が本山に社会科見学に訪れました。

佐野湛要布教伝道部長が本堂にて、本門寺堀のお話をして頂きました。



本門寺の主な予定

- 令和六年七月
- 六 日日原家 三回忌
- 十二日 重須婦人会清掃奉仕
- 十三日 渡井家 二十三回忌
- 二十日 第八回清掃奉仕
- 二十日 重須婦人会清掃奉仕
- 二十四日 御大事御本尊会
- 二十六日 三輪是法先生勉強会

令和六年八月

- 九 日 重須婦人会清掃奉仕
- 十三日 八月盆、十六日まで
- 十七日 第三回 おもす道場
- 十八日 第三回 おもす道場
- 二十二日 法縁会理事会(大坊)
- 二十三日 重須婦人会清掃奉仕
- 二十九日 塔中会議

丹精者御芳名

- 香華・その他 供養
 - 市内北山 星谷とみ子様
 - 諸堂・境内清掃・作業奉仕
 - 本門寺内 重須婦人会様
 - 本山塔中 寺庭婦人様
 - 本門寺内 石川由緒家様
 - 市内北山 望月正見様
 - 静岡市 紺文シルク様
- 謹んで御礼申し上げます